

# 中村延子

## 区議会レポート

# Vol.31

令和4年1月号



発行／立憲民主党・無所属議員団  
中野区中野4-8-1  
Phone: 03-3228-8876  
Fax: 03-3389-8718

編集／中村延子事務所  
中野区弥生町4-32-6-303  
Phone: 080-6533-9450  
email: n@nakamuranobuko.jp

### 中村延子のプロフィール

1981年9月2日 中野区生まれ

1994年 東京文化小学校卒業

小学校5年生の冬、ブラジルで(社)CISVの11歳キャンプに1ヵ月参加し、9ヵ国の子どもたちと異文化交流を体験。この頃から国際社会に興味を持つ。

1997年 東京文化中学校卒業

15歳で単身アメリカに渡る決意。

2001年 米国アニーライトスクール高等部卒業

在学中、夏休みを利用して宝仙学園幼稚園でボランティアをし、卒業必須活動である50時間のコミュニティーサービスを、自分の出身地である中野で実施。1912年から続いている伝統行事のメイデーでは、高校生活での活動が評価され卒業生から1人選ばれるメイクイーンに選ばれた。

2005年 米国クレアモント・ピッツァーカレッジ卒業

在学中、上智大学比較文化学部にてサマースクール受講。2004年 北京大学医学部へ短期留学。

2005年 民間企業に就職

大学卒業式

株式会社ケンコーボレーションから業務委託を受ける総務代行会社に就職。外国人賃貸住宅管理部業務の一端を担う。

2009年 衆議院議員手塚よしお秘書

地元事務所に勤務。

2010年 参議院議員蓮舫秘書

参議院選挙にて、秘書派遣で蓮舫大臣の選挙事務所スタッフとして奮闘。その延長線上で事業仕分けのお手伝いも含め、蓮舫事務所に出向。

2011年 中野区議会議員 初当選

1,530票をいただき初当選。建設委員会、震災対策特別委員会を歴任。厚生委員会、地域支え合い推進特別委員会副委員長を務める。民主党東京都連青年委員会交流局副委員長、中野区国際交流協会評議員。

2015年 中野区議会議員 2期目の当選

2,513票をいただき、2期目の当選。区民委員会委員長、少子高齢化対策特別委員会に所属。後期は、総務委員会委員、少子高齢化対策特別委員会委員を務める。

2019年 中野区議会議員 3期目の当選

2,603票をいただき3期目の当選。子ども文教委員会、中野駅周辺整備・都市観光調査特別委員会に所属。後期は、総務委員会、危機管理・感染症対策調査特別委員会副委員長を務める。党青年局局長補佐、女性議員ネットワーク世話人。

2020年1月 第一子を出産

おとめ座/B型/酉年 趣味:音楽、料理、旅行、読書



▲兄と2人で祖母の故郷・広島県福山市にて



▲宝仙幼稚園でのボランティア活動



▲メイデーでのスピーチ



▲北京大学に短期留学



▲2011年4月中野区議選



▲中野区議会立憲民主党・無所属議員団

### 令和4年度に向けた予算要望を行いました

11月2日、立憲民主党・無所属議員団として、区長ならびに教育長に対して令和4年度予算要望を行いました。重点項目としては、以下を要望しました。

- 子どもの居場所機能を残した児童館跡地の活用検討と早期提示
- 学校整備に必要となる予算の義務教育施設整備基金への着実な積み立て
- 職員2000人体制を見直し職員定数を増やすこと
- 南部地域の産後ケア施設配置検討と暫定的な利用場所の確保
- 児童相談所の万全な体制での開設と今後の人員体制の検討
- 商店街活性化のため区内全域の空き店舗実態調査と利活用
- 中野区地域包括ケア総合アクションプランに基づく複合的課題に対する重層的支援の実施、およびコロナ禍における高齢者支援のさらなる拡充
- 要介護者(高齢者・障がい者)が新型コロナウイルス感染症に感染した場合の支援体制の整備
- コロナ禍における地域活動の再開や新たな活動の立ち上げに対応した中間支援の拡充および財政支援の実施
- 新型コロナウイルス感染症対策について、感染状況や治療方法の開発動向などをみながら、適宜必要な予算と人員を確保し区民の生命と健康を守ること
- ゼロカーボンシティ宣言に基づいたまちづくりの推進
- コロナ禍で失われた子どもの体験を取り戻す機会の創出
- 常設プレーパークの整備およびプレーパークを担う団体への支援制度創設と担い手育成
- オンライン教育推進のための教員研修強化、コンテンツ充実、環境整備
- 児童生徒の通学路の安全確保の強化
- 「子どもの貧困対策計画」の策定および同計画に基づく子どもの貧困対策事業の充実



### 中野区が来年度予算で検討中の主な取り組み

中野区議会第4回定例会に区が来年度予算で検討中の主な取組が示されました。来年度設置予定の児童相談所に関わる業務の拡充、策定予定の子どもの権利条例の推進、子どもの貧困対策の推進、教育相談体制の充実、ICT教育の推進等が盛り込まれました。さらには、私たち会派が求めてきた児童館での一時預かり事業の拡充や、派遣型病児保育、妊娠出産トータルケア事業の拡充など、子育て先進区に資する施策が含まれています。そのほかにも、9月に策定された基本計画を推進する施策が多く盛り込まれています。ご意見お寄せいただけると幸いです。 [詳しくは→](#)



### 児童館の改正条例は議長採決で否決されました

第4回定例会には、児童館の改正条例が提案されました。この条例は、弥生児童館を閉館し、大和西、朝日が丘、新井薬師児童館を子育て広場と学童施設に転換するものです。児童館全廃方針だった前区政からの方針転換で、9館を残し、さらには機能充実を図っていくものです。前区政では全廃方針だったため、この間、児童館職員を採用しておらず、集約し継承していかなければ、中野区の児童館職員のノウハウは消滅してしまう状況です。今後10年間で半数の職員が、今年度末には6名が退職予定です。乳幼児親子の居場所についても、転換する3館は子育て広場を設置し、児童館の乳幼児親子事業の強化も予定しています。児童館の跡地活用についても、区は子育て支援・地域交流機能の確保を検討するとしています。区有地に民間施設を誘致し、その際に地域のコミュニティ機能設置を求めると、区の財政負担を抑えながら子育て世帯の居場所を確保していくことも可能です。これまで区は、小学生の放課後の居場所にはキッズプラザ、乳幼児親子には徒歩圏内に子育てひろばの整備を進めており、子どもたちの居場所はトータルで増加しております。誰一人取り残されない子育て環境を目指すためにも、これからの児童館には大きな役割が求められます。このままでは、先細りしてしまうこと、さらには全廃にならざるを得なくなることを懸念しています。集約して現状の児童館を再生していくためには必要な条例であると考えます。



最終日の本会議では、賛成20(立憲・共産・都ファ・近藤・石坂・立石)反対20(自民・公明・むとう・いながき・小宮山・吉田・竹村)となり、議長採決で否決となりました。

本会議では、会派を代表して賛成討論を行いました。 [詳しくは→](#)



# 第3回定例会で総括質疑を行いました



## 1 令和2年度決算について

- (1) 歳入について
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策について
- (3) 予算の執行見直しについて
- (4) 施設マネジメントについて
- (5) 構造改革、行政評価、業務改善の連携について
- (6) その他

## 2 公衆衛生について

- (1) コロナ禍を経た公衆衛生への認識について
- (2) ワクチンで防げる感染症 (VPD) について
- (3) HPV感染について
- (4) その他

## 3 その他



詳しくは ↑



## 子育て世帯臨時特別給付金は10万円一括給付に

子育て世帯への給付については、12月10日の本会議に先行5万円に関する補正予算が上程され、全会一致で可決されました。後半の5万円については、国の迷走もありましたが、12月17日に臨時会を開き全会一致で可決されました。これにより、児童手当本則支給の方には、12月28日より順次振り込みが開始されました。

申請が必要になる16歳～18歳のご家庭や公務員のご家庭は、1月4日から申請受付が開始されました。

詳しくは →



# HPVワクチンに関する最新情報

## HPVワクチン推進議員連盟が設立されました

11月9日、参議院議員会館およびオンラインにて『子宮頸がん予防ワクチン接種推進自治体議員連盟設立総会』を開催し議連の設立が行われました。11月9日時点で25都道府県67市区町村の126名による超党派地方議員の参加を頂き、総会には、三原じゅん子・参議院議員、塩村文夏・参議院議員、音喜多駿・参議院議員を始め党派を超えて国会議員の方々にも駆け付けていただきました。中村延子も議連の役員としてご承認いただきました。議連の決意表明として、①積極的勧奨の再開 ②キャッチアップ接種の公費負担 ③9価ワクチンを定期予防接種に ④男性のHPVワクチンを定期予防接種に ⑤接種率向上に向けた啓発 ⑥有害事象の診療体制拡充 ⑦若い女性の検診受検率向上を掲げました。

厚労省がHPVワクチン接種積極的勧奨を差し止めてから8年余。守れたはずの多くの命が失われてきました。一人でも多くの皆様にご賛同いただきご協力をいただき、一丸となって取り組んでいきます。



## HPVワクチンの積極的勧奨が再開されました

2013年6月から差し控えられていたHPVワクチンの積極的勧奨について、厚生労働省は11月26日に自治体に対し、勧奨再開の通知を发出了しました。2022年4月より全国で再開となりますが、準備が出来た自治体はそれより前に再開をすることも可としています。中野区としては、2022年3月に積極的勧奨再開を一部行う方針を固め、1月13日の厚生委員会に報告されました。3月に通知が行われる対象は中学3年生です。来年度には、定期接種の対象者全員に対する積極的勧奨も行います。対象者へ情報が適切に届くよう今後も取り組んでいきます。

## HPVワクチンのキャッチアップ接種が決定!

12月23日の厚生労働省ワクチン分科会で、1997年生まれ～2005年生まれの女性で、積極的勧奨が行われず情報がなかったことによりHPVワクチンの接種を逃してしまった方に対するキャッチアップ接種が了承されました。2022年4月から3か年で行われる予定です。

## HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する意見書を採択

立憲民主党・無所属議員団から提案をしていた、「定期接種の機会を逃した女性に対するヒトパピローマウイルスワクチン接種機会の確保ならびにより効果の高いがん予防対策を求める意見書」が賛成多数で可決されました。 [内容は こちらから →](#)



## その他の活動

11月に子ども若者センターが開設し、内覧会へ伺いました。4月には同じ建物内に児童相談所が開設されます。写真は会派で。



8月21日、「りっけん中野・こども部」で『今だから学びたい! 子どもを守る、医療の関わり方』をテーマに勉強会および区政報告会をオンラインで行いました。講師には、大阪母子医療センター新生児科医長の今西洋先生にきていただきました。



10月18日、「りっけん中野・こども部」で保活セミナーを実施。一緒に活動しているママインタンの皆さんにも経験談をお話いただくなど、お手伝いいただきました。



12月18日、WOMAN SHIFTでペリネイタルロス(流産、死産などによる赤ちゃんとのお別れ)に関する勉強会を開催し、当事者団体の方からお話を伺いました。実は多くの方が経験されているのにも関わらず支援が行き届いていない中で、先進事例から学びました。



## ママインターンと活動中

8月から、同じ会派の河合りな議員と一緒にママインターンを受け入れています。率直な当事者の声を聞かせていただくなどしながら一緒に活動しています。

